日本のこえ　（第3種郵便物認可）　第212号

結成五周年

民学同 第十回 大会開く

ベトナム反戦闘争勝利、安保破棄をめざし
強固な大衆的学生同盟の建設を！

民主主義学生同盟第十回全国大会は、八月末、大阪で開催された。一九六二年九月十五日に結成以来、五周年を迎えるとあって、全国から代議員、評議員が多数参加、大きな成功を収めた。会場には「ベトナム反戦闘争勝利、安保破棄をめざし、不屈の大衆的学生同盟を築き上げよう」の大会メイン・スローガンが掲げられ、熱気あふれる大会となった。

全国学友に力づよい方針と訴えを決定した民学同大会

民学同は、四月以降、九回大会決定の組織路線（党内支部の強化と機関紙の定期発行）を実行し巨大な前進をかちとっている。「今年をベトナム反戦勝利の年に」の政治方針の正しさは、情勢の進展と春の闘争の中で確認された。原潜放射能汚染問題、九大ジェット機墜落事件等の情勢で、〝現地闘争主義〟や〝諸要求主義〟では学友の支持をかちとることはできなかった。民学同の「ベトナム反戦安保破棄、佐藤打倒」のスローガンに学友は支持を与えている。それを裏書きするように春の自治会選挙の結果は、三派「全学連」の分裂中分解、民青の後退となり平和共存派の前進をもたらした。

全般的危機の第三段階の一層の深化と帝国主義の失地回復のための必死のまきかえしという情勢の中で、今大会が開かれたのである。

大会では第一に、最終局面を迎えたベトナム情勢の中で、英雄的ベトナム人民と連帯し、北爆全面停止、米軍撤退をめざして闘い、ベトナム反戦闘争を勝利させ、その勝利の上に、日米安保条約破棄の闘いを推進、アジアに平和共存秩序をうちたてるために闘う。

第二に全国の労働者、学生と連帯し「一〇・二一ベトナム反戦勝利、安保破棄、沖縄返還、佐藤打倒国際連帯統一行動を全国全自治会の課題と戦術の一致に基づくストライキをふくむ大衆的共同闘争としてかちとる。

第三にセクト間抗争という学生戦線の困難な局面の中で、戦線統一への今なしうる具体的一歩――課題と戦術の一致に基づく共同闘争を推進し、闘いの高展を妨害するセクト主義を粉砕すること。そのためには、大阪府学連と兵庫県学連の大衆的強化と、秋期拠点自治会選勝利をめざし闘う。

また、極左主義を利用した大学自治への政府、文部省の攻撃に反撃し、大学自治を守り抜く闘いの重要性が指摘された。政府、独占からのイデオロギー攻勢が強まっている中で、〝明治百年祭〟を始めとする超国家主義イデオロギー、アナーキズム、トロツキズムとの思想闘争の重要性が確認された。そしてこれらの任務を遂行するためにも頑強な大衆的学生同盟を建設する任務が確認された。

こうして大会は全国代表者員会から提案された草案を全会一致で採択し、秋の闘いの前進を築いあった。この後と新指導部を選出し、一〇・二一成功をめざす全国学友へのアピール、スローガンを全員拍手のうちに採択した。

アピール

情勢は重大な転期をむかえている。ベトナム人民の英雄的闘いと社会主義体制を先頭とする世界平和愛好勢力の闘いは、米帝国主義を追いつめ、北爆全面停止、米軍撤退を要求し、ベトナム人民勝利めざし、怒濤の如く迫っている。日本人民の闘いも、安保破棄、沖縄返還をめざし、前進している。平和勢力が統一し闘い抜くなら、ベトナム反戦闘争を勝利させることは全く可能である。

この情勢の中で、秋の闘いの頂点たる一〇・二一にむけて、世界平和愛好勢力は決起を決定し、国内にあっても、総評四百万労働者、原水禁等が闘いを決定し、巨大な規模で闘い抜かれようとしている。

全国の学友諸君！

ベトナム人民の勝利めざし闘おう！全民主勢力と連帯して闘おう！全国の学友諸君一〇・二一を共に闘おう！学生戦線では、極左主義、セクト主義の偏向によって、統一した闘いは、困難にあえいでいる。しかし、春の闘いは、それらの偏向が、大衆の力、統一の要求によって、必ずや克服されることを示した。

平和共存、反独占民主主義、学生戦線統一のために、一貫して闘い抜き、ここに、同盟建設五周年をむかえ、十回大会を圧倒的に成功させたわれわれは、一〇・二一い抜く決意である。（要旨）

一九六八年八月三十一日　民学同第十回全国大会